

麻疹流行に対する麻しん含有ワクチン接種に関する考え方

2024年4月4日

予防接種推進専門協議会

現在国内で麻疹患者の報告が多くなっています。現在国内では定期接種として第1期として1歳～2歳未満に1回、第2期：5歳以上7歳未満で小学校就学前の1年間に1回接種していますが、年齢相応のワクチン接種をしていない方、特にこれまで麻しん含有ワクチン接種歴、ならびに罹患歴のない方が、現在感染者の多くを占めています。

麻疹は昨年から海外諸国では流行していますが、麻疹は空気感染をするため、渡航者、並びに来訪者が増加している昨今、国内での麻疹ウイルスへの曝露の機会が増えていることが想定されます。定期接種対象年齢の人で年齢相応のワクチン接種を受けていない方、麻疹に罹患するリスクが高い人（免疫力が低下している人、妊婦さんなど）の周囲の方、並びに海外渡航予定者や訪問者と空間を共有する機会が多い方（観光業、技能研修生受け入れ先などの職員）は、ご自身の麻しん含有ワクチンの履歴を確認していただき、不足している場合は速やかにワクチン接種を行ってください。

一方で、国内で流通している乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン（以下、MRワクチン）の供給量には限度があります。また、現在のように、国内で麻疹が流行するとワクチン接種希望者が急増し、ワクチンの供給が追いつかない場合が生じます。従って予防接種推進専門協議会では以下のように優先順位を提案いたします。

優先度順位

- ① 第1期、第2期定期接種対象者 **（最優先）**
- ② 麻疹に罹患するリスクが高い人（免疫力が低下している人、妊婦さん等）の周囲の方*
*妊娠中の風疹を予防するための、妊娠を希望する女性や妊婦さんの周囲の方へのMRワクチン接種も含みます
- ③ 海外渡航予定者や訪問者と空間を共有する機会が多い方
- ④ 年齢相応のワクチン未接種、並びに麻疹罹患歴なしの方

本来であれば渡航前に未接種未罹患者はワクチン接種を行っていただきたいところですが、流行予測調査事業（抗体保有率調査）の結果や麻疹の感染力、感染経路を考慮した場合、日本で麻しんワクチンが開発される以前に流行期を経験した50歳以上の方では、麻疹罹患歴のある方が多数を占めると考えられるため、50歳以上の方で海外渡航時にワクチン接種歴不明、未罹患あるいは罹患歴不明の場合は、抗体価検査を実施したうえで接種の

判断をしていただければと思います。

また風疹第5期定期接種対象者（昭和37年度～昭和53年度生まれの男性）は風疹抗体価を測定し、十分な風疹抗体価を保有しない方はMRワクチンを接種することになるため、麻疹に対するワクチンを定期接種として接種することが可能です。なお、風疹第5期定期接種は2025年3月31日までの時限措置のため、早めに検査を受けるようにしてください。